

授業科目		教育課程ナンバー	時間割コード	開講期	単位数(時間数)	必修・選択
災害看護論		BNNSS7L16	30206	4前	1(30)	必修
担当教員	武田未央	実務歴	有	看護師として病院に7年勤務 保健師として行政機関に5年、NGO職員として海外に2年勤務		
担当教員	木下まゆみ					
概要	過去の災害からの学びや、また災害の体験学習を通して、災害を身近なこととして考え、自助・共助・公助の観点からも災害時の支援活動についての理解を深める。災害と災害看護の概念、災害が人々の生活や健康に及ぼす影響を学習し、災害医療の原則、災害サイクルに応じた看護の役割を考え、災害に対する看護の役割の理解を深める。さらに地域における日常的な健康危機管理の重要性と、そこでの看護師の役割について理解する。					
学修目標	1) 災害についての知識を得て、災害が人々に及ぼす影響と健康障害について説明できる。 2) 災害看護の対象について理解し、被災者の特性に応じた看護について説明できる。 3) 災害サイクルや活動現場に応じた看護の役割を説明できる。 4) 災害医療・看護についての基礎的な知識を学び、災害看護の具体的な活動について説明できる。					
DPとの対応	智をいつくしむ力		人をいつくしむ力		命をいつくしむ力	
	科学的論理的思考力		全人的人間理解		職業倫理と人権擁護	
	探求力と生涯学習能力		ケアリングとコミュニケーション		適切な看護実践	◎
回	学修内容			予習・復習内容		
1	オリエンテーション・災害看護を学ぶ意義			これまで自分が体験した災害について考えておく テキスト p2~16 講義前後に読む		
2	災害の理解、災害の定義、過去の災害から学ぶ			近年発生した災害について考えておく テキスト p18~22 災害の分類 講義前後に読む		
3	災害の種類と健康障害：災害と疾病構造についてグループワーク①			テキスト p22~35 講義前後に読む 災害時に多い症状と看護についてイメージする		
4	災害医療と看護の基礎知識①：災害サイクル			テキスト p35~38、p46~48 講義前後に読む 災害医療と平時の医療の違い、災害サイクルの理解		
5	災害医療と看護の基礎知識②：災害時の支援体制、医療体制			テキスト p48~51、p63~67 講義前後に読む わが国の災害医療対応の理解		
6	災害模擬体験(京都市市民防災センター体験学習)①			災害の種類と健康障害で実施したグループワークの復習		
7	災害模試体験(京都市市民防災センター体験学習)②			実際の災害体験を通して、社会や健康への影響を考える テキスト p8~9、図1-5 p26表2-2 復習		
8	災害看護の役割、災害看護の対象者			テキスト p78~85 講義前後に読む 要配慮・避難行動要支援者の理解		
9	災害看護と法律、災害看護と倫理			テキスト p68~75 講義前後に読む 災害支援に関する法律について理解する		
10	災害とこころのケア			テキスト p171~190 講義前後に読む 災害がもたらす精神的な影響とケアについての理解		
11	災害サイクルに応じた災害看護の実践①：急性期、亜急性期			p101~143のうち 講義内で提示された予習・復習 災害医療チームによる活動について理解できる		
12	災害サイクルに応じた災害看護の実践②：慢性期・復興期			p101~143のうち 講義内で提示された予習・復習 災害医療チームによる活動について理解できる		
13	災害サイクルに応じた災害看護の実践③：静穏期			p101~143のうち 講義内で提示された予習・復習 病院における平穏期の対応について理解できる		
14	災害特有の健康障害、トリアージの実践			テキストp39~46 トリアージについての事前課題を提示		
15	災害と危機管理、地域防災(自助、共助、公助)、まとめ			講義内で提示		

使用 テキスト	竹久喜久子・小原真理子(2020)『系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学』医学書院
参考図書	①勝見勝・小原真理子『災害看護—災害サイクルから考える看護実践—』ヌーベルヒロカワ。 ②災害に関する各種報告書、新聞記事など 他、講義中に適宜紹介する
成績評価 基準	定期試験70%、講義中に示す課題やレポート提出30%